

# 令和2年度 県立波崎柳川高等学校自己評価表

(その1)

目指す学校像	一人一人の自己実現に対応した教育を実践する学校 (夢を実現する・取り組みを結実させる・地域とともに歩む)			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>進学面では、大学合格者数は減少したが、定期的な進路ガイダンスの実施、日常的な進路相談などにより、医療系専門学校に8名合格するなど、生徒の希望する進路実現を果たすことができた。就職では公務員に2名合格したのをはじめ、地元企業を中心に就職内定率は100%である。</p> <p>神栖市と市内3高校の4者で包括連携協定を締結し、地域との連携のさらなる活性化を目指す。</p> <p>学校評価アンケートの結果から、「学校行事の充実」「教員の生徒理解」に対する高評価が8割を超える。「授業内容の満足度」も8割に迫る勢いで、「本校に入学してよかった」生徒が8割を超えている。生徒ファーストの精神で日常的な学習指導、特別活動等を充実させる。</p>	学習指導	① 授業研究等による授業改善 (生徒の実態に即した授業・対話力・発信力を意識した授業・学ぶ楽しさが実感できる授業) ② ICT環境の整備と改善 (classiの活用) ③ 観点別評価の工夫	B	
	特別活動・部活動	④ 集団を率いるリーダーの育成・主体性を育む学校行事 (キャリアパスポートの活用) ⑤ 生徒会活動の充実・常任委員会活動の活性化 ⑥ 部活動の活性化と加入率向上	B	
	生徒指導	⑦ 時間遵守・服装指導をきめ細かく行い、基本的な生活習慣を確立する ⑧ 校内外において交通安全指導を強化し、命の尊さや交通マナーについて理解させ、生徒の規範意識を高める ⑨ SNSの使用に関するマナーの向上	C	
	進路指導	⑩ キャリア教育の充実・メモ活動の推進・スコラノート、ポートフォリオの活用 ⑪ ゼミや資格指導の体制改善 ⑫ 進路相談体制の改善 ⑬ 企業連携プログラム・高大連携プログラムの推進	C	
	地域・関連機関との連携	⑭ 中高連携事業の充実 ⑮ 地域貢献活動の推進 ⑯ 学校説明会の充実・教育活動の積極的な発信 ⑰ 各種専門機関との連携	B	
	働き方改革	⑱ 全職員の連携と業務の効率化 「ワーク・ライフ・バランス」の意識浸透	C	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題及び改善策
教務	基礎学力の向上	校内研修を充実化・活性化させ、研究授業や相互授業参観を定期的実施する。①③	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>各所で目標が抽象的だった。職員視点と生徒視点の目標を明確にし、行動目標を具体的にする。</li> <li>各部署と連携して、Classi やタブレットの生徒、保護者、職員の活用をより意識していく。</li> </ul>
		リアクションペーパーを組織的に運用し、その効果を定期的に検証する。①③	D	
	学習環境の整備と活用と活用	校内・教室内の掲示物の整備やタブレット等を活用した指導ができる学習環境を整える。①②	D	
	効果的な情報発信	HPやClassi, 掲示物等を効率よく運用する。②	C	
	図書館利用者の増加	館内の環境を整備して、掲示物やイベントで利用しやすい環境を設定する。⑤	A	
利用者数等の調査や利用者を増やす方策を図書委員会を活用し、定期的に検証・策定する。⑤		A		

※ 評価基準 A:大変良くできた B:良くできた C:普通 D:やや不十分 E:不十分

## 別紙様式2 (高) (その2)

進路指導	望ましい行動を引き出し、生徒の行動を強化する。	意識改革を目的としたルーブリック評価を用いたアンケートを3回実施する。⑬	C	B	・オンラインへの対応力の強化を図る。 ・ICT教材(c l a s s i)の活用による総合探究活動の実践
		生徒の意識を高める進路ガイダンスを実践する。⑬	A		
	活発な言語活動を実践する。	授業や定期テストで言語活動の実践を促す。①③⑩	B		
		進路ガイダンスや総合的な探究等に言語活動を組み込む。①⑪⑬	A		
	適切な進路指導をする。	3学年の最終進路決定100%を目指す。⑪⑬	B		
		2学年末までに90%の生徒が希望進路を決定することを目標とする。⑪⑬	B		
	適正な文書処理や真摯な生徒対応をする。⑫⑬	A			
生徒指導	基本的生活習慣を確立させる。	あいさつを励行し、礼儀作法を身につけ、品位ある生活を送れるようにする。⑦	C	C	・生徒指導チェックシートの活用法を再確認し、生活指導を徹底する。 ・下校時の校外指導強化を図る。 ・学校行事だけでなく、通常授業日もスマートフォンの回収を試みる。
		遅刻防止・始業時間遵守に努め、時間を守る習慣をつけさせる。⑦	B		
	健康・安全に対する意識の向上。	病気・交通事故の恐ろしさを理解させ、自己の身体と健康に関心を持たせる。⑧	A		
		登下校指導を強化し、交通事故や問題行動の未然防止に努める。⑧	A		
	携帯電話の使用マナー向上。	校則を理解させ、節度ある使用を心懸けさせる。⑦⑨	C		
		外部講師を招き、SNSに関するマナー・トラブルを理解させる。⑨	C		
保健厚生	組織的な学校環境の整備を図る。	快適な学習環境を目指し、組織的な環境美化活動を実践する。⑦	B	B	・事務と連携し、施設修繕に迅速に対応する ・状況の変化に応じた新型コロナ感染症対策の実施 ・防災教育の一層の充実 ※火災・地震による津波を想定した
		施設・設備の維持改善を講じ、安全管理を図る。②⑦	B		
	健康に対する意識の高揚を図る。	学年・担任と協力連携して、生徒の心身の健康の向上を目指す。②⑫⑬	B		
		健康診断等を利用し、健康の保持増進を図る⑬	A		
	防災意識を高める指導をする。	外部講師を招聘し、防災講話や避難訓練を実施することで、生徒・教職員が想定外の事態に適切な判断・具体的な行動がとれるようにする。⑬⑰	A		
渉外広報	学習環境充実のために地域連携を促進する。	地域活動や支部活動に参加し、地域へ貢献することに努める。⑭⑮	B	B	・コロナ禍の影響により十分な活動ができなかった。次年度の諸行事で影響が出ないようにする必要がある。 ・PTA役員のみならず積極的なご協力をいただくことができた。
		マナーアップ活動への参加促進を行う。⑦⑮	B		
	保護者・教職員ともに参加型の活動を促進する。	校内行事や企画への積極的参加を呼びかける。⑤⑭⑮	A		
		開かれた学校を目指して、PTAとの協議を行う。⑮⑯	B		
	P T A広報誌の充実を図る。	学校と保護者の意思疎通を図り、情報交換を積極的に行う。⑮⑯⑰	B		
特別活動	生徒主体の行事運営を充実させる。	生徒一人一人に役割を持たせることによって、生徒主体の行事運営を促進する。④	A	B	・変化が激しい中で、状況に応じた活動ができた。 ・委員会の活動も活発だったので、さらに綿密な計画を立てていきたい。
	委員会活動の活性化を図る。	定期的に常任委員会を開催することで、委員会活動の活性化を図る。⑤	B		
	キャリアパスポートを活用する。	キャリアパスポートの導入について準備を進め、効果的な活用を図る。④	B		

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分

## 別紙様式2 (高) (その3)

1 学年	時間を守る。基本的な生活習慣を身につける。	時間を守り、欠席・遅刻・早退の少ない学年を目指す。⑦	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞く姿勢をとることができた。次の段階として話の内容を理解し考え自発的な言動ができるところまで指導する。</li> <li>学習については時間を取り課題を与え指導できた。今後は意欲的、自発的な行動ができるようにする。</li> </ul>
		身なりを整え自ら進んで挨拶ができる生徒を育てる。⑦	B		
	個々に合わせた学力の向上を図る。	SHR等の時間を活用しプリント学習により基礎的学力の向上を目指す。⑩	C		
		習熟度別授業などで個々の能力に合わせた学習指導をし、学力の向上を目指す。⑪	C		
部活動やHR活動に積極的に参加させる。	部活動やクラス委員等を通してリーダーシップを育てる。④⑤	B			
	各種活動に積極的に参加させ、自覚と責任を持たせ自己の役割を果たす気持ちを育てる。④⑤⑥	B			
2 学年	家庭学習の習慣を定着させる。	TPOに合わせた服装や言動などの基本的な生活習慣を確立し、自主的・自律的に行動する生徒を育てる。⑦⑧	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT等を活用し、授業以外でも学習を継続する大切さや進路について具体的に考える機会を常に持たせる。希望の進路実現に向けて家庭との連携を強化し、授業や課外等を通して基礎学力やコミュニケーション能力の向上を図る。</li> </ul>
		スコラ手帳、1日1ページノート、classiを活用し、家庭学習の定着を図る。②⑩	B		
	ボランティア活動への積極的参加を促し、資格取得を推進する。	学校行事やボランティア活動への積極的な参加を促し、見聞を広め、自己の役割を果たす生徒を育てる。④⑤⑥	A		
		各教科と連携して適切な課外授業を実施し、資格取得に積極的に挑戦させ、自己伸張を図る。⑪⑬	A		
目標の具体化と実現への取り組みを進める。	授業に集中して取り組み、自己実現に向けて基本的な学力を向上させる。①⑩	B			
	HRや授業を通して、様々な情報を提供し具体的な目標を設定させる。⑫⑬⑭	A			
3 学年	自他を尊重する態度を育成する。	最上級生としての責任と自覚を持たせる。④⑦⑧	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、計画的・継続的に進路指導を行うことができた。SNSの適切な使用や自他尊重・自己錬磨の姿勢については、さらなる指導が必要である。社会の一員として適切に判断し、良識ある言動をとることのできる生徒を育てていきたい。</li> </ul>
		相互に認めあい、高めあい、謙虚な態度と寛容な姿勢を養う。⑤⑥	B		
	自己実現に向け、継続的に努力する。	授業に主体的に参加し、確かな学力を有する生徒を育てる。①②	B		
		検定やボランティアに挑戦し、自分を磨く生徒を育てる。⑩⑪⑮	B		
社会に貢献できる力を育成する。	進路指導部や各教科と連携し、生徒の進路指導の実現に努める。②⑩⑫⑬	A			
	社会人として広い視野や深い判断力を備えた生徒を育てる。⑨⑮	B			
国語	基礎的・基本的知識を身に付けさせる。	漢字検定を督促して、対策指導を行い、漢字検定準2級程度の読み書きができる力を養う。①⑪	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアクションペーパーの活用ができた。漢字検定合格者の増加のため、ゼミ以外に授業でも取り組みが必要と考えられる。</li> </ul>
		反復練習によって用言の活用をできるようにし、古典読解への基礎力を養成する。①	B		
	文章読解力を養う。	文章を的確に理解し、自ら意見・考えを持てる力を養う。①	B		
地理 歴史 公民	基礎・基本を定着させ、歴史的思考力・地理的認識力を高める。	ICTの活用など生徒の実態にあった授業を実践し、地理的・歴史的事項の定着を図る。①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の発言を促す授業を展開することができた。ICTをさらに活用し、基礎基本の定着を図り、生徒の思考力や発信力を高めていきたい。</li> </ul>
		日本や世界の諸課題を多角的・多面的に考察し、自分の言葉で発表する力を養う。③⑪	B		
	基礎・基本を定着させ、現代の諸課題を主体的に考察する力を養う。	ICTの活用など生徒の実態にあった授業を実践し、社会的事象について深く考察する力を養う。①②	B		
		現代の諸課題を広い視野に立って判断する力を養い、社会に参画する公民としての自覚を持たせる。③⑪	B		
数学	基礎・基本の定着を図る。	個々の能力に合わせて少人数習熟度別授業等を活用して基礎・基本の計算力と応用力を高める。①⑪	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの関係で思うような時間を確保することができなかったが、限られた時間の中で計画した指導ができた。</li> </ul>
	主体的に問題を解決する能力を養う。	既習事項を活用して、どのような道筋で、問題を解けばいいのかを考えさせる。看護・医療系および大学入試対策の問題演習を頻繁に行う。特に、放課後のゼミに力を入れる。⑫	B		

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分

## 別紙様式2 (高) (その4)

理科	身近な事物・現象に関する観察等から科学的な見方・考え方を養う。	自然現象の解明を教材に取り入れ、科学に対する興味・関心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。①③⑭	B	B	・今年度はICTを活用した授業方法が進展した。来年度はICTを実験における授業においても活用していきたい。
	教員が教材を工夫し、分かる授業を展開する。	板書やPCの画像を工夫し、理解しやすい授業を展開し、理科嫌いを無くす。①②	A		
		演示実験・実験を的確に実施し、対面授業と関連させ科学的事象を体験する。①④	B		
保健体育	生涯にわたって運動する習慣を身に付けさせる。	生徒自らが安全面に配慮しながら運動に親しめるようなゲーム主体の授業を展開する。①③	B	B	・感染予防対策を徹底しながら、運動量・運動技能の確保習得を図りたい。種目の精査、指導の工夫も行いたい。
		スキルテスト等を行い、運動技能の習得に努める。①	A		
	自らの健康を維持し、体力向上の意識を育てる。	健康に関する個人の意志決定や行動選択が適切にとれるように授業を進める。①③	C		
芸術	意欲的に芸術活動に取り組む態度を身に付けさせる。	基本的技術を身に付けさせる。①③	A	B	・実技教科として万全な感染症対策を徹底させたい。また、移動教室に際し時間を守る意識付けをし、授業に取り組む姿勢を促す。
		様々な表現方法を体験させる。①③	B		
	感性を高め、創造的な表現をする能力を養う。	内容に応じた表現の工夫をさせ、創造力を高める。①③	B		
家庭	家庭に関する基本的な知識と技術を習得させる。	安全で衛生的な教具や実習室を整備し、校内外の研修を通して授業改善を図る。①③	A	B	・実習室等の感染対策に苦慮し、最低限の実習・演習しかできなかった。ICT等を活用し、家庭生活で実践できるような課題設定や評価の方法を検討したい。
		実習や体験的活動を通して、家庭生活に係る実践的な知識と技術を身につけさせる。①③	B		
	家庭や地域の一員として主体的に行動できる力を養う。	ホームプロジェクトや家庭クラブ活動を通して、各自の家庭や地域生活の課題を明確化し、解決する能力を身につける。⑮	B		
英語	基礎的な英語の知識を習得させる。	生徒の実態に応じて教材を工夫し、授業において効果的に活用する。①②	B	B	・休校期間を含め、ClassiなどのICTを十分に活用することができた。来年度はICT活用の継続と、英検の受験者数・合格者数増加を目指したい。
		生徒の進路実現に向け、英検受験を奨励し、対策ゼミを設け、合格率を上げる。⑪	D		
	英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	校内プレゼンテーション大会を実施し、全体・個人のプレゼンテーション力の向上を目指す。①⑩	A		
情報	情報を科学的に理解し実践できるようにする。	授業における生徒の言語活動の機会を増やす。学期末等にその成果を発表する機会を与える。①③	B	B	・小学校や中学校で学んできたプログラミングについて、連結できるような内容を意識して組み入れていく。
		伝えたい情報を相手の状況などを踏まえ、効率的に伝えるための表現力を身に付けさせる。①③	B		
	情報化社会に参画する態度を養う。	データを効率的・効果的かつ高精度で処理・加工するための情報処理能力を身に付けさせる。①③⑫	B		
		情報化が人間や社会におよぼす影響を理解させる。⑦⑨⑩	B		
		情報化が及ぼす影響を克服するために必要な知識を身に付けさせる。⑦⑨⑩	B		

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分